



# デジタル時代の 請求書処理

CoupaのAIドリブンプラットフォームで  
請求書処理を次のレベルへ



|                                               |    |
|-----------------------------------------------|----|
| 目前に迫る規制の改正                                    | 3  |
| 複雑な市場                                         | 5  |
| 政府による電子請求書の義務化への4つのアプローチ                      | 6  |
| CoupaのCaaS (サービスとしてのコンプライアンス)を利用した請求書処理とアーカイブ | 7  |
| 発行と提出、提出の検証、提出されたものの回収                        | 8  |
| 企業が直面するコンプライアンスやその他の課題                        | 9  |
| Coupaだから実現できる: 自動化、AIドリブンのイノベーション統合プラットフォーム   | 10 |
| CoupaのAIドリブンプラットフォームで請求書処理を次のレベルへ             | 11 |

購買領域において群を抜いた存在であるCoupaは、ガートナー、IDC、Ardent Partnersのいずれの業界アナリストによっても、マーケットリーダーに位置づけられています。しかし、Coupaは単なる購買の企業ではありません。経費清算、支払い処理、調達、分析を包括するソリューション群を提供しています。請求書処理のスペシャリストとして、AIを活用し、10年以上にわたりソリューションを提供してきました。ロールスロイス、バークレイズ、ナイキ、P&G、AON、アストラゼネカ、モンデリーズなど、多くの企業がCoupaのAIドリブンプラットフォームの一部であるCoupa Invoicingを利用して成功を収めています。

# 目前に迫る規制の改正

コンプライアンスの徹底は、請求書業務に携わる人にとっての最重要課題です。ポストコロナの景気回復に向けた行動計画もあり、各国の税務当局は、タックスギャップの解消に向けて動き出しています。

このタックスギャップを解消するため、世界各国の政府はネットワークや提出モデルの義務付けを行っています。そして、それにより全く新たな課題が生まれています。状況をさらに複雑にするのが、政府の要件や納税期限が国によって異なることです。これらの要件に対応するためには、法務、オペレーション、財務などの各部門が足並みを揃えなければなりません。ここで大切なのは、対応を後回しにせず、今すぐ行動することです。

こうした課題に加え、EU域内でビジネスを展開する企業は、事後的に行っていた税務報告をリアルタイムの電子報告に置き換える改正案、VAT in the Digital Age (ViDA、デジタル時代におけるVAT)への準備を進めており、国内での電子請求書や電子報告の義務化が早まることとなります。

企業は、政府の命令にも注意を向けると同時に、テクノロジーや業務上の課題に取り組み、スマートな意思決定と効率化のためのAI活用の継続的な推進などを行っています。

さらに、戦略におけるステークホルダーとして買掛金勘定(AP)の改善も推進しています。



このすべてが、多くの企業に重大な変化(法的にも業務的にも)を迫るものであり、電子請求書の発行・受領を怠った企業には罰金が科されることになります。これに対し企業が取れる選択肢は2つあります。ポイントソリューションを導入するか、AIドリブンプラットフォームを利用したアプローチをとるかです。

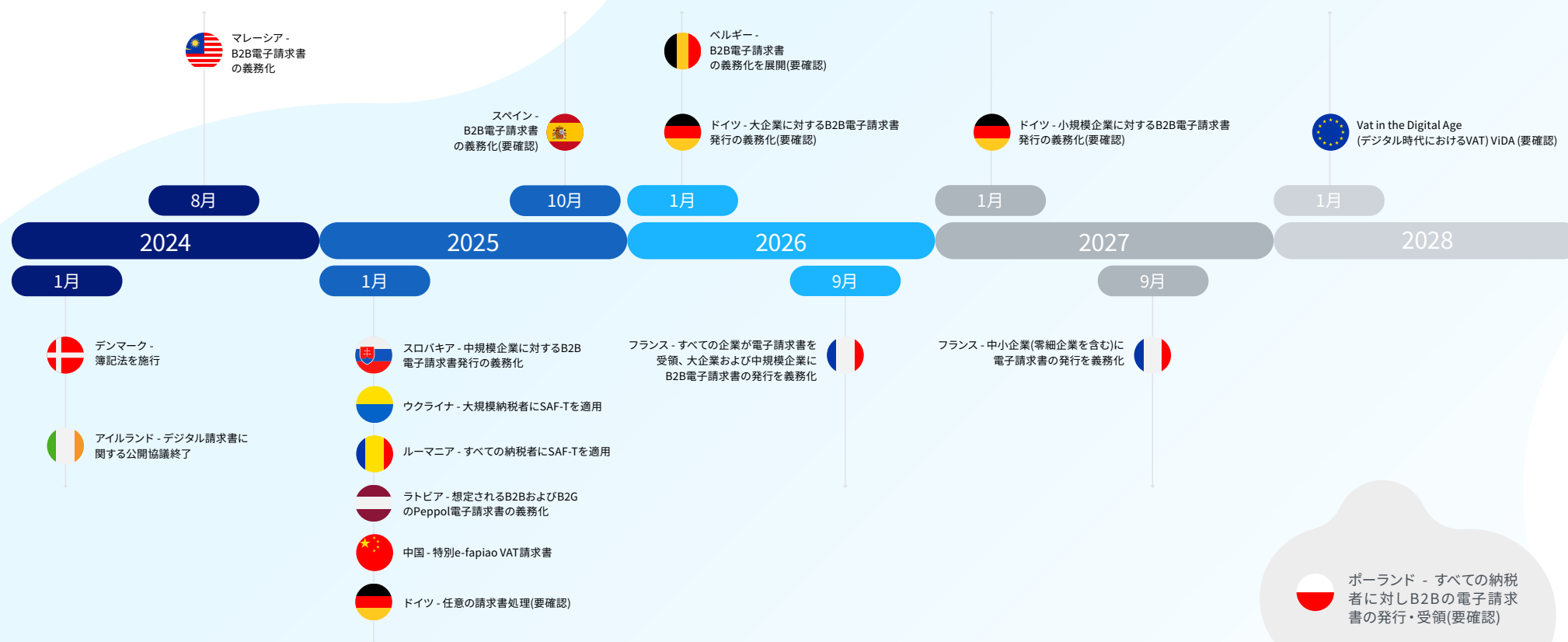
請求書のみのポイントソリューションは、より手頃に見えますが、APや広範な組織全体で価値を生み出すことはできません。**AIドリブンプラットフォームを利用するアプローチでは、戦略的な請求書処理が可能になり、インサイトが深まり、エンドツーエンドの購買業務に伴うリスクを軽減できます。**

なかには、他の方法をとることで、ビジネスのすべてを危険にさらしている企業もあります。こういった企業は、誤った安心感から決断を先延ばしにしています。これが選択肢にならないことは言うまでもありません。



# 複雑な市場

請求書のコンプライアンスに対する各国政府のアプローチや期限はまちまちです。  
以下に、各国の電子請求書導入スケジュールの一部を簡単にご紹介します。



# 政府による電子請求書の義務化への4つのアプローチ



分散型継続的  
トランザクション管理(CTC)

政府と並行して、多数の認定サービス事業者が、中小企業向けの無料ポータルを提供できるようにします。ポータルでは、請求書データを検証して整合性があることを確認し、法令遵守を促進します。請求書データのサブセットは税務当局に報告されます。

代表例:  
フランス



一元管理モデル

一元管理された請求書処理プラットフォーム(国税当局が管理)を使用して、請求書トランザクションを承認します。請求書の文書は、固有のコード、ID、QRが付与され、合法的な税務書類として扱われます。

代表例:  
ポーランド



相互運用性モデル  
(PEPPOL)

認定サービス事業者が標準化されたプロセスを運用し、発注、納品書、ステータスメッセージなどのトランザクションタイプを交換できるようにします。

代表例:  
このモデルは、EU全域の企業対政府間トランザクションにおいて一般的であり、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールでも推進されています。



リアルタイム報告

これは、電子請求書の義務化というよりも、ベンダーが各税務当局に財務データをリアルタイムまたはほぼリアルタイムで報告することを必須にするものです。リアルタイム報告は、義務化に先立って、または義務化と同時に導入されるのが一般的です。

代表例:  
スペイン、ハンガリー

# CoupaのCaaSを利用した請求書処理とアーカイブ

Coupaは、請求書処理をグローバルにサポートできます(Coupaは、180カ国以上で請求書処理を行っています)。さらに、Coupaが独自に提案するCaaS (サービスとしてのコンプライアンス)は、機能、プロセス、専門知識をテクノロジーに組み込むことで、企業が法令遵守を達成し、リスクを軽減するのをサポートします。各国の要件に合わせてカスタマイズでき、必要な場合には政府との連携も行えます(8ページを参照)。

CaaSは、Coupaプラットフォーム独自のコンポーネントです。CaaS Invoicingでは、Coupaプラットフォームを介して取引先のパートナーが該当する税務要件や商業的要件に従った請求書を電子形式で送受信できるようになります。安心してご利用いただけるよう、Coupaでは外部の専門家と連携し第三者によるレビューを行っています。さらに、グローバルな税務・会計規制を遵守するために、文書の保管と回収を行う法令に準拠したアーカイブ機能を提供します。



# 発行と提出、提出の検証、提出されたものの回収

Coupaは、下記のような一般的な請求書処理シナリオをはじめ、政府による様々なアプローチに対応するソリューションを提供しています。



発行と提出: Coupaがサプライヤーに代わって法定請求書を作成し、該当する場合には、その国の税務当局に提出します。



提出の検証: サプライヤーがCoupaの外で電子請求書の提出を行い、請求書の提出後にCoupaがその提出を検証します。



提出されたものの回収: 提出済みの請求書を、税務当局のシステムからCoupaが回収します。



# 企業が直面する コンプライアンスやその他の課題

コンプライアンスに限らず、企業が抱える課題や懸念事項は次々と増え、変化しています。しかし、Coupaは時代の先を見据え、進化しています。ここでは、APチームが直面する課題をどのように解決するかをご紹介します。

**負債の不十分な可視化:** 出所や形式に関係なく、すべての請求書のステータスに素早くアクセスできるようにすることで、ビジネス全体の状況を正確に把握し、適切な行動をとることができます。

**時代遅れの手作業の処理に依存:** Coupaは、AIドリブンの高度な請求書処理機能を提供し、抽出や手作業の処理を自動化し、効率的な例外処理を可能にします。これにより、効率性と正確性が向上し、最終的に請求書処理サイクルを短縮します。

**APの生産性の低下:** Coupaは、請求書処理にかかる時間を短縮し、サプライヤーへの支払いの遅延など、取引上の摩擦につながる手作業の処理を排除することで、APチームができることを増やすことができます。

**不審な動きや不正行為を特定:** Coupaの高度なAIドリブンのリアルタイムモニタリングにより、不当・違法事項、未承認取引、または不正行為を示すパターンを、支払いを行う前に検知します。

**サプライヤーとの積極的な関係構築と維持:** 請求書処理のプロセスを効率化し、遅延を減らし、効率的なコミュニケーションを促進することで、Coupaは直接材と間接材の両方のサプライヤーとのコラボレーションと信頼を強化します。

**意思決定がうまくいかず、データからのインサイトも限られている:** Coupaは、AIドリブンのインサイト、推奨事項、レポート機能を提供しており、企業は請求書データから得られる十分な情報に基づいた意思決定を行い、貴重なインサイトを得ることができます。

**取締役会レベルにおける戦略性の欠如:** コスト効率を改善し、財務リスクを最小限に抑え、リアルタイムのインサイトを提供することで、全体的な財務戦略と意思決定に貢献する立場にAPチームを押し上げることができます。



# Coupaだから実現できる: 自動化、AIドリブンのイノベーション、統合プラットフォーム

コンプライアンスに関する課題の解決などに加え、市場トップレベルの自動化、Community.aiを含むAIドリブンのイノベーション、統合プラットフォームを介して提供できる新機能により、Coupaは独自の価値を提供します。

## 自動化

効率化を推進します。Coupa Invoicingにより、市場トップレベルの自動化を実現することで、APチームの生産性が向上します。AIドリブンのタッチレス請求書処理、組み込みの承認ワークフロー、AIドリブンのプロセスインサイトを活用できます。手作業の処理、サプライヤーのボトルネック、請求書あたりのコスト削減、請求書サイクルタイムの短縮を支援します。

## AIドリブンのイノベーション

AIドリブンの請求書処理に関するインサイトにより、プロセスの効率性をさらに高めることができます。Coupa Community.aiは、5兆ドル相当の匿名化された支出データを活用し、企業の意思決定のための情報を提供します。AIドリブンのインサイトと推奨事項を活用することで、競合他社よりも優位に立つことができます。かつてないほど簡単に、より深いインサイトを見つけ出し、よりの確な意思決定を行い、十分な情報に基づいたプロセス改善を推進できます。

## 統合プラットフォーム

請求書による支出から、より多くの価値を引き出します。Coupa Invoicingは、Coupaプラットフォーム内の他のアプリケーションとシームレスに連携します。Coupa Procurementによる優れたサプライヤーエクスペリエンスの実現から、無数のCoupa Payオプションによる請求書の直接支払い、さらにはSpend GuardのAIを原動力とした請求書モニタリングにより、支払いを行う前に不正や重複の可能性のある請求書を止めることもできます。



# CoupaのAIドリブンプラットフォームで請求書処理を次のレベルへ

世界中で急速に利用が進む電子請求書は、効率性、優れた運転資本管理、リスク軽減といったメリットをもたらします。政府による電子請求書の義務化により、電子請求書は「あれば便利」ではなく、「なければならない」ものになりつつあります。企業は待ったなしで、今すぐ行動を起こさなければなりません。

Coupaは、大企業にも中小企業にも最新の請求書処理ソリューションを、画期的なAIドリブンプラットフォームで提供します。Coupaの指定パートナーとともに、企業は現行および今後の電子請求書処理の義務化に自信を持って対応できます。Coupaの1番のコアバリューは、顧客の成功がCoupaの成功であるということです。Coupaはこれからもお客様の声に耳を傾け、お手伝いします。

Coupaとパートナーシップを組むことで、よりスマートで収益性の高い意思決定をより速く行うことが可能になります。これにより、より良いビジネス成果と成長をもたらすことができると、Coupaは確信しています。

詳細はこちらをクリックしてご覧ください。

Coupaのエキスパートへのお問い合わせはこちらをクリックしてください。





Coupaを利用し、新たなレベルの請求書処理を行っている企業:



*FINNAIR*



novo nordisk

KANTAR

AkzoNobel

sanofi

#### Coupaについて

Coupaは、企業の業務をスマートにし成長をサポートします。Coupaが提供するAIドリブンのプラットフォームは、調達、購買、サプライチェーン、財務管理を連携して最適化します。企業規模を問わず3,000社を超えるグローバル企業がCoupaを信頼し、営業利益率の変革、効率化と成長、資金の最適化、リスク低減を実現しています。詳細は[coupa.co.jp](https://coupa.co.jp)をご覧ください。また、[LinkedIn](#)と[X \(Twitter\)](#)でもCoupaをフォローしてください。